

## これまでのミーティングで挙げられた関連する意見

第4回オンラインミーティングでは、「資料や情報の収集・提供・保存のあり方／司書の専門性」をテーマに意見交換をしていただく予定です。その際の参考として、第3回ミーティングまでに挙げていただいた意見で、今回のテーマにも関連すると考えられる意見を以下に整理しました。その他資料と併せて事前にお目通しいただき、当日お話しされる内容をご検討ください。

### (1) 資料・情報の収集・提供に関する意見

※表内は第2回・第3回開催結果概要より関連するご意見を整理させていただきました。

分類	意見
収集・保存・提供する資料・情報の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国籍の市民や障害のある市民、デジタル機器が使えない市民を含む誰にでも必要な情報を提供（第2回・トピック1）</li> <li>・ インターネットや漫画喫茶からは得られない資料・情報を提供（第2回・トピック1）</li> <li>・ 地域館・分館では、地域のニーズを踏まえたうえで、地域に関連する資料・情報を提供（第3回・トピック1）</li> <li>・ 豊中のリレーエッセー関連資料を展示するほか、名誉市民コーナーにB/z松本孝弘氏のコーナーを加えて充実（第2回・トピック2）</li> <li>・ 日本語非母語話者や語学学習者に向けた外国語資料コーナーを設置（第2回・トピック1）</li> <li>・ 国際交流センターと分担して外国語資料を収集（第2回・トピック1）</li> <li>・ 館内でCD・ビデオ等を提供（第2回・トピック2）</li> <li>・ 電子図書館としての機能を構築し、電子書籍を提供（第2回・トピック1）</li> <li>・ 資料をデジタルアーカイブ化（第2回・トピック1）</li> <li>・ 市民の活動や地域の知をデジタルで記録・蓄積（第3回・トピック1）</li> <li>・ 現在及びこれからの市民の暮らしや思想、人生、市民活動などに関する資料・情報をさまざまな形式でアーカイブ化（第3回・トピック2）</li> <li>・ イベントなどに関する情報も利用者へ積極的に発信（第3回・トピック1）</li> <li>・ 所在地や最寄り駅からの距離、提供しているサービスなどがまとまったムック本のような資料を作成（第2回・トピック2）</li> </ul>

分類	意見
資料・情報を提供する方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動貸出機・返却機を導入する場合には、返却処理の漏れやタイムラグがなく、汚破損の確認などもできる仕組みを構築（第3回・トピック1）</li> <li>・ 予約サービスや WebOPAC の利便性を向上（※具体例：スマホ利用時表示の最適化／著者名の原綴りでの検索など）（第3回・トピック1）</li> <li>・ 地域館・分館では、中央図書館のみが所蔵している資料を予約申込から半日程度で提供（第3回・トピック1）</li> <li>・ 特定のテーマに関する資料のリストやセットを作成し、所蔵館や貸出状況などが把握できる仕組み（ヴァーチャル図書館）を構築（第3回・トピック1）</li> <li>・ 資料や情報が洪水のように溢れている中で、本当の情報を見極めるために必要な資料・情報（多様な観点に立つ資料・情報など）を収集していることを展示などで周知（第2回・トピック2）</li> <li>・ 個室ではなくオープンスペースで市民が自由に参加できる市民講座（健康講座など）を開催（第2回・トピック1）</li> <li>・ デジタルガバメント宣言も踏まえて情報弱者を救うための情報リテラシー講習会などを開催（第2回・トピック1）</li> <li>・ ニーズが小さいと考えられる取組でもとにかく発信するほか、それらをオープンスペースなどで開催することでも魅力を発信（第2回・トピック2）</li> <li>・ 企画展などの情報を誰でもアクセスしやすいデジタル形式で発信（第2回・トピック1）</li> <li>・ SNS により情報を発信（第2回・トピック1）</li> <li>・ 大学図書館のように若者向けに SNS（Twitter 等）で情報を発信（第2回・トピック2）</li> <li>・ 市立図書館各館の特徴や口コミを SNS（twitter 等）や市報で発信（第2回・トピック2）</li> <li>・ 20～30 代の市民に対して、市立図書館及び豊中市の HP や SNS にインパクトのある記事を掲載（第2回・トピック2）</li> <li>・ 利用者自身が能動的にクチコミ（自習室が使える、ママ友ができる）等の情報を得たり発信したりすることを促す仕組みを構築（第2回・トピック2）</li> <li>・ 若者に向けてクチコミをうまく活用（第2回・トピック2）</li> <li>・ 特定の館しか利用しない市民に向けて、各館の取組を発信（第2回・トピック2）</li> <li>・ SNS を利用していない高齢者のために新聞を通じて情報を発信（第2回・トピック2）</li> </ul>

分類	意見
他自治体と連携した提供方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大阪府・他市の図書館で借りた資料を市立図書館で返却（第3回・トピック1）</li> <li>・ 他市の図書館の資料でもインターネットで予約（第3回・トピック1）</li> <li>・ 音訳資料の作成・提供などに関しては、他市とも連携（第3回・トピック1）</li> </ul>

分類	意見
他施設と連携した提供方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館機能などさまざまな機能を併設し、情報発信の面でそれらとコラボレーション（第3回・トピック1）</li> <li>・ 幼稚園や小学校で時間を設け、図書館のことを深く分かりやすく説明（第2回・トピック2）</li> </ul>
サービスポイントの設置場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅・スーパー・コンビニなど、買い物のついでに資料を受け取ることができる場所や、人が多く集まる場所（第3回・トピック1）</li> <li>・ 駅チカ・ナカ、ショッピングモール、公園、子育て支援センター、コンビニ、郵便局など、買い物や子どもを遊ばせたついでに利用できる場所（第3回・トピック1）</li> <li>・ 他施設内（子育て支援センター・高齢者施設・ショッピングモール内など）に設置（※分館含む）（第3回・トピック1）</li> <li>・ 駅などに小さなカウンターやロッカー、ポスト形式で設置（第3回・トピック1）</li> </ul>

## (2) 司書の役割に関する意見

※表内は第2回・第3回開催結果概要より関連するご意見を整理させていただきました。

### 意見

- ・ 市民の知的好奇心を満たすための施設として、中央図書館から市民・地域に向けて様々なイベントを仕掛けるほか、中央図書館職員は各館を巡回して積極的に情報を発信(第3回・トピック2)
- ・ 大阪のベッドタウンとして発達した豊中市の市民の仕事や家庭、生活に関する視点を持ち、積極的に関与(第2回・トピック1)
- ・ 人と人のやり取りも基本に据え、ボランティアやサークルの協力も得つつサービスを提供(第2回・トピック2)
- ・ 司書が2・3人ずつテーブルに常駐し、利用者からの相談に知り合いのような距離感で対応(第2回・トピック2)
- ・ レファレンスのための資料を中央図書館に集約するのであれば、地域館・分館にはそことつなぐための専門的な知見のある人材を配置(第3回・トピック1)
- ・ レファレンスに対応する人材の配置が難しい時間帯や施設(※サービスポイント含む)では、Zoomなどを活用して簡易的に相談できる仕組みを構築(第3回・トピック1)
- ・ 地域館を通じて利用者によるICT活用を支援(第3回・トピック1)
- ・ 市内の学校などに対して図書館だよりや図書リストを配布(第3回・トピック2)